



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

Newsletter

Vol. 7 No. 1 2006年 6月

## 鷺の宮卓話

所長 太田敬雄

あるところに私はこんな事を書き込んでいました。これは庭の芝に生えた雑草を抜くことに痛みを感じている方へのメッセージです。書きながら、自分も一本の雑草でしかないことに気づき、とても心が安らぎ、肩の荷が下りた気がしました。

我が家の芝の中には色々な草が生えてきます。今日は「ねじり草？」とかいう草が、スーッと伸びた茎にらせん状に小さく可憐なピンクの花をつけています。この「雑草」、花屋さんでは一鉢 1500 円とかで売られていたと聞いた途端に雑草ではなくなりました。「うん、そう言えば芝を部下に従えたお姫様の風格がある」なんて思ったりします。

ねじり草の前はアツザクラが、これも小さなピンクの花を付ける。その前は匂い草をはじめ色々なスマレが。そして、ねじり草が終わって暫くすると真っ白なユリが芝のあちこちで咲こうと順番を待ちながら今盛んに芽を伸ばしています。ですから我が家では春先から今まで、そしてこれからも当分芝刈りができません。どうも我が家では芝が一番の雑草になってしまったようです。

人間は勝手なもので、自分が好きな草花は大事にするけれども、邪魔だと「雑草」って十把一絡げに括ってしまう。でもどの草も自分が雑草だなんて思っていない。みんな一生懸命生きて、種を残して次の代を育てようとしている。そんな草を食ってしまう私や昆虫が居たり、枯らしてしまう天候があったり、かと思うと天敵が絶えてはびこってしまったりする。それも全てそのままに、地球からズ〜ッと離れて眺めてみるとすると、地球はやっぱり適度に青く美しい地球なんです。

雑草は抜きたければ抜きましょう。でも「雑草」としてではなくて名前のある「〇〇草」として抜いてやりたいものです。そして私たち自身も雑草のように抜き捨てられることもあると知って居ることも大事でしょう。残酷なようでいて、それが命、循環し変身しながら続いていく命。そう悟れば、苦にすることも無く食べたり、抜いたり、感謝しながら切ったり、大事に育てたり、愛でたり、また焼いたりもできます。私自身もそんな雑草の一本・・・多年草ですけどね。

最近、我が家では「雑草」のアカザを食べています。昔、父母から食べられると聞いていたことを思い出し、妻が気まぐれに「食べてみようか」と手折ってきたのが始まりでした。これが美味しいのです！調べてみれば、アカザは野菜として栽培されていたことがあるのだそうです。何が雑草なのか、ますます考えさせられます。

## 多文化交流 in マラン (インドネシア) 2006 企画書

特定非営利活動法人国際比較文化研究所では、異なる文化間の相互理解と心の交流を目指した交流プログラムを実施してきました。これまでは群馬県内での実施でしたが、今年はインドネシアのマランで実施することといたしました。

今日の世界情勢の中で、特に理解と交流を深める必要があるのがイスラム文化です。日本のイスラム文化に関する報道はあまりにも偏っており、私たちは本当のイスラムの方々の姿を知りません。そこで、今年はインドネシアのマランで交流プログラムを持つことにしました。マランのブラウイジャヤ大学で日本語を専攻する学生達との日本語での交流を軸にインドネシア語と文化を学びつつ多岐にわたる交流の時を持ちます。皆様のご参加をお待ちしています。

### 記

- 1、 期 間：2006年8月28日(月)～9月6日(水) 9泊10日(含機内1泊)
- 2、 行 先：インドネシアのマラン市 国立ブラウイジャヤ大学
- 3、 宿 泊：主にブラウイジャヤ大学ゲストハウス(予定)
- 4、 募集人数：上限を20名とし、10名以上で実施。
- 5、 参加資格：18歳以上の健康な人
- 6、 経 費：18万円(他にインドネシア入国ビザ取得費米ドルで\$25各自負担)
- 7、 使用言語：日本語
- 8、 主なプログラム：大学での交歓会、大学生によるインドネシア語と文化の授業、プロモ山一泊旅行、その他の文化体験活動、(オプション：日本比較文化学会国際研究部会大会)
- 9、 日 程：8月28日(月) 成田集合 10:00  
11:00 ガルーダインドネシア航空 GA881 成田発  
デンバサール乗り換え GA345 18:40 スラバヤ着  
イビス・ラヤワリ・スラバヤ・ホテル泊  
29日 バスにてスラバヤからマランへ 到着後ゲストハウス  
30日～9月4日 プログラム  
9月2日 自由行動 (学会参加自由)  
9月5日 マラン～スラバヤ発 GA331 ジャカルタ経由日本へ GA880  
9月6日(水) 8:30 成田着・解散
- 10、 担当旅行社：日本旅行埼玉支店 担当者：那珂敬子
- 11、 企画団体(問合せ先) NPO法人国際比較文化研究所 379-0124 群馬県安中市  
鷲宮3413-3 [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp) FAX:027-382-2117
- 12、 参加申込：メール、またはファックスで：氏名(ふりがな) 性別、年齢、職業(学校名)、郵便番号、住所、電話、メールアドレスを記し、7月6日までに。
- 13、 参加申込金5万円を7月8日までに。残金を8月8日までに振り込んでください。  
郵便振替 口座記号番号：00510-0-61974 加入者名：国際比較文化研究所

「インドネシアの軽井沢」とも称される、ジャワ島東部の高原の町、マランで当研究所の会員、荒井美幸さんがプログラムの企画を担当して下さいます。荒井さんの教え子達に日本語を使う機会を与え、私達はインドネシアの、イスラムの文化に肌で触れて来ませんか。生涯の思い出となる時となること、間違いありません！

## 2005 年度総会議事録（抄録）

日 時 2006年5月21日（日）午後2時30分～3時30分

場 所 高崎哲学堂

司会者、国際比較文化研究所理事、金井美由紀氏

開会挨拶 国際比較文化研究所理事、伊藤成

出席者数 17 名、委任状提出者 57 名、計 74 名。2006 年 5 月 21 日現在会員総数は 224 名、団体正会員 2 団体。その 1/5 である 45 名を超えて出席があり、総会成立。

会員の互選により、議長に国際比較文化研究所理事栗原優氏、議事録署名人に理事金井美由紀氏、野口紀子氏を選出。

審議事項：栗原優議長のもと、1 号議案から 5 号議案を審議

2005 年度事業報告、2005 年度収支決算報告、2006 年度事業計画、2006 年度予算すべて承認され、役員改選の件も全役員の再任が承認されました。

特に事業計画では「英語を学ばせる前に読む本（仮題）」に関して、理事の栗原優氏より、会員の高橋強氏と協力して出版助成を得るため今年中に原稿を募集し、来年 5 月末までに申請するよう準備を進めるとの提案あり、承認されました。

事業報告：総会後のライブを依頼し実現の運びとなった冷泉公裕氏ライブならびにまた総会の会場を高崎哲学堂に設定したことについての説明があった。

副理事長福田英作氏の閉会挨拶を持って 2005 年度総会を閉会。

### 2005 年度決算 ・ 2006 年度予算案

科 目	2006 年度予算	2005 年度決算
収入の部		
1 財産運用収入		
利息収入	10	15
2 会費収入		
正会員会費収入	360,000	354,000
団体会員会費収入	40,000	39,880
3 事業収入		
研究会・講演会事業収入	10,000	0
国際理解教育指導者養成講座	0	0
留学支援事業	0	0
海外研修事業	1,800,000	0
学会活動支援事業	380,000	181,294
言語・文化教育事業	500,000	0
多文化交流事業	0	0
特定事業収入（ひだまり交流会）	0	0
大学設立準備事業収入	0	34,600
4 寄付収入		
多文化交流事業収入	0	0
その他寄付収入	260,000	384,170
5 雑収入	0	40,163
当期収入合計（A）	3,350,010	1,034,122

支出の部		
1 研究事業費	0	0
2 研究会・講演会事業費	5,000	23,600
3 国際理解教育指導者養成講座事業費	0	0
4 留学支援事業費	0	0
5 海外研修事業費	1,600,000	0
6 学会活動支援事業費	340,000	0
7 言語・文化教育事業費	430,000	0
8 多文化交流支援事業費	0	3,500
9 特定事業費	0	1,792
10 大学設立準備事業費		
製本費	0	302,400
設立準備金返金	0	350,530
11 管理費		
人件費	30,000	0
賃借料	420,000	498,855
事務費	100,000	109,432
通信費	100,000	294,550
理事会費	10,000	0
広告宣伝費	30,000	0
新聞・図書費	0	0
水道光熱費	0	0
負担金	13,000	13,000
支払い手数料	8,000	8,118
雑費	0	0
12 予備費	100,000	0
当期支出合計 (B)	3,186,000	1605,777
当期収支差額 (A) - (B)	164,010	-571,655
前期繰越収支差額 (C)	534,878	1,106,533
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)	698,888	534,878

上記の通り承認されました。

2006 年度 事業計画の中から：(抜粋)

- 1、 韓国語に続き、「中国語・文化入門講座」：半年前に結婚して安中に来ている台湾人のビビ・チェンさん（愛知教育大学で太宰治研究。修士）を講師に中国語講座と「台湾短期留学」の検討を始めている。順調に行けば秋には中国語講座を立ち上げたい。
- 2、 「韓国語・文化入門講座」：新規事業として4月に発足した。25名の参加を得られ、現在水曜日の夜、安中市文化センターで実施中である。素晴らしい指導者を与えられ充実した講座が展開中である。



韓国語講座 朴恵蘭先生と受講生達 楽しく熱気にあふれた授業が続いている。出席率の高さが受講生の皆さんの満足度を示しているようである。

#### <会員動向>

2005年初めからこの6月24日までの会員動向を調べて見ましたら、色々なご事情で退会された方が13名、新規に入会された方は15名でした。

現在の会員数は225名と団体会員2団体です。先号の「会報」から榛名山麓みどりの大学の創設者だった方々で、創設者の会の会費をご寄付下さった方々はじめ、これまでの研究所の活動にご協力戴いた方々にも「会報」をお送りしていますので、送付総数は約350になります。その方々にも会員になって頂ければと願っております。

<2006年度新入会者> 次の方々が4月1日以降に入会されました。(敬称略)  
朴恵蘭、飯塚ゆう子、原俊夫、森泉寿義雄、

#### <会費納入状況>

2006年3月25日から2006年6月24日までのご報告です。いつも研究所の活動を支えていただいて有難うございます。なお、重複してお振込いただいた場合は次年度分として受けさせていただきます。

今後氏名を掲載されることを望まれない方が居られましたら、お手数ですが研究所までご一報下さい。

山縣英明(06)、藤井恵(06)、胡麻鶴はるみ(05,06)、丸山武子(06)、  
吉田省史郎(06)、阿部昭子(06)、加藤修(05,06)、斉藤正典(06)、斉藤和子  
(06)、伊藤成(06)、ベーケン恵(06)、中易圭子(06)、森泉孝行(06)、

三上布美子 (06)、渡辺洪 (06)、木暮道子 (06)、櫻井なおみ (06)、堀越敏男 (06)、小野関千枝子 (06)、村井田和夫 (06)、佐俣英司 (06)、久保正直 (06) 古谷正仁 (06)、白井義夫 (06)、妹尾信孝 (06)、高山昇 (05, 06)、木戸美歌 (06)、太田一朗 (06)、真下東雄 (06)、今井睦子 (06)、佐藤幸正 (06)、大塚正子 (06)、永田強一 (06)、佐藤春香 (06)、星野富男 (06)、星野敏子 (06)、戸塚浩美 (05)、近藤佳代 (06)、前橋市国際交流協会 (06)、工藤早恵 (05, 06)、中江清恵 (06)、朴敬二 (06)、前田申栄 (06, 07)、佐野啓予 (06)、井殿園 (06)、青木洋子 (06)、須藤勲子 (06)、今井幸 (06)、高橋美一 (06)、半田美津子 (06)、高橋学嗣 (04, 05, 06)、中司和雄 (06)、青葉豊 (06)、青葉由香 (06)、飯田俊 (06)、新井美弥子 (06)、森泉宏昭 (06)、梶原悦子 (06)、山下明昭 (06)、金子憲太郎 (06)、森涼子 (06)、森村久子 (05, 06)、熊倉浩靖 (06)、水木健一 (06)、渡部恵知子 (06)、岡田一恵 (06)、土屋操 (06)、栗原優 (06)、狩野真由美 (06)、久本三朝男 (06)、関千景 (06)、野口紀子 (06)、太田知子 (06)、金井美由紀 (06)、野口周一 (06)、坪井教由 (06)、関口澄 (06)、木村真弓 (06)、長谷川路子 (06)、板垣剛 (06)、太田玲子 (06)、太田敬雄 (06)

#### <寄付>

次の方々にご寄付をいただきました。有難うございます。研究所の活動のために大事に使わせていただきます。胡麻鶴はるみ、阿部昭子、村井田和夫、中村みどり、真下東雄、前田申栄、森泉宏昭、金井正明、森村久子、板垣剛

#### <会費納入のお願い>

会費未納の方には振込用紙を同封させていただきます。現在、研究所の活動はほぼすべて会員の皆様の会費とご寄付でまかなわれております。これから少しずつ会費以外の活動費も得られるよう努力中ですが、皆様の変わらぬお支えをお願いします。

#### 編集後記

諸般の事情から5月の総会后直ちに発行する予定だったニューズレターが1ヵ月遅れの発行となってしまいました。先ず、その不手際をお詫びし、今号の発行までにこぎつけられるようご協力いただいた役員、会員の皆様に御礼を申し上げます。

発行が遅れたため、特に久しぶりの多文化交流企画である「多文化交流 in マラン (インドネシア) 2006」のお知らせがすっかり遅くなってしまいました。申込期間が短くなってしまいましたが、是非とも一人でも多くの方に参加していただいてイスラムの社会の有りのままの姿を見てくること、インドネシアの大学で真剣に日本語を学んでいる学生達に日本語を使い日本文化に触れる機会を提供していただくことにご協力いただきたいと思います。

日々、暑さが増してきています。皆様、ご健康でお過ごし下さい。今日はこれから桑の実でも摘んできてジャム作りでもしてみようかと思っています。(太田記)

**Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所**

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：[mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp)

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所

